※1 ヨハネ 4:10
「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」

〇御子が遣わされた理由と人の応答：

1. **理由：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿(17-18)**

※ルカ 19:10
「人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。」

※1 テモテ 1:15
「「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた」ということばは、まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。」」

※ヨハネ 5:27
「また、父はさばきを行う権を子に与えられました。子は人の子だからです。」

※ヨハネ 9:39
「そこで、イエスは言われた。「わたしはさばきのためにこの世に来ました。それは、目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためです。」」

「人の子は、既に失われ、裁かれた世に来られました。中立の世に来て、一部を救い、一部を裁くためではなく、失われた世に救いをもたらすために来られたのです。全世界が救われるのでないことは、次の節(18-21 節)で明確に示されています。しかし、イエスの使命における神の目的は、この世に救いをもたらすことでした。だからこそ、イエスは後に『世の救い主』(ヨハネ 4:42)と呼ばれたのです。」(D.A. カーソン)

※エペソ 2:3
「私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」

※黙示録 20:12-15
「また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行いに応じてさばかれた。海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのおの自分の行いに応じてさばかれた。それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。」

※ローマ 5:8-9
「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。」

※ローマ 8:1
「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。」

2. 応答：贈り物を拒むか or 受け入れるか(19-21)

1）贈り物を_____(19-20)

※ヨハネ 1:9
「すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた。」

※ヨハネ 8:12
「イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。…」

※創世記 3:10
「恐れて、隠れました。」

※ヨシュア記 7:21
「私は、分捕り物の中に、シヌアルの美しい外套一枚と、銀二百シェケルと、目方五十シェケルの金の延べ棒一本があるのを見て、欲しくなり、それらを取りました。それらは今、私の天幕の中の地に隠してあり、銀はその下にあります。」

※2 サムエル記 12:12
「あなたは隠れて、それをしたが、わたしはイスラエル全部の前で、太陽の前で、このことを行おう。」

「キリストを嫌う理由は、罪を愛する心にあります。人がもし罪を抱きしめるのをやめるなら、救い主を受け入れるでしょう。人々がキリストのもとに来ない理由は明白です。彼らは自分の罪を手放したくないのです。その罪のことで心を騒がせたり、叱責されることを恐れているのです。…罪を愛する者は、同時に救い主を愛することはできません。どちらか一方を愛し、もう一方を憎まなければならないのです。唯一の救い主である『世の光』を意図的に拒絶し、罪の闇、悲痛の闇、泣き叫び、歯ぎしりするような外の暗闇を選ぶことは、恐ろしい選択なのです。」(チャールズ・スポルジョン)

2）贈り物を_____(21)

「『お前は王様なのか？』とローマの兵士たちはあざけりました。『ならば冠と衣が必要だ。』彼らはイエスに茨でできた冠を与え、紫の衣を着せました。そして、ひざまずいたふりをして『陛下！』と言いました。それからイエスを鞭で打ち、唾を吐きかけました。彼らは理解していませんでした。イエスがいのちの君であり、天と地の王であり、彼らを救うために来られた方であることを。兵士たちはイエスに『私たちの王』という札を作り、それを木の十字架に釘付けにしました。そして、町の外れの丘へと向かいました。イエスはその十字架を背負って歩きました。イエスは一度も悪いことをしたことがありませんでした。それなのに、彼らは犯罪者を処刑する手段で殺そうとしていました。兵士が十字架に釘付けにした後、イエスは息も絶え絶えにこう言われました。『父よ、彼らをお赦しください。彼らは自分が何をしているのか分かっていません。』『お前は私たちを救うために来たと言うのか！』と人々は叫びました。『自分すら救えないくせに！』しかし、彼らは間違っていました。イエスは自分自身を救うことができたのです。もしイエスが呼べば、天使の軍勢が彼のもとへ飛んで来たでしょう。『もし本当に神の子なら、その十字架から降りて来られるだろう！』と彼らは言いました。そして、確かにその通りでした。イエスは十字架から降りることができたのです。実際には、一言で全てを止めることもできました。あの少女を癒やしたときのように、嵐を静めたときのように、五千人を食べさせたときのように。しかし、イエスはそこに留まりました。彼らは分かっていなかったのです。イエスを十字架に留めたのは釘ではありませんでした。それは愛だったのです。」